

## 審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	かながわ国際政策推進懇話会（第12期・第2回）		
開催日時	2016（平成28）年1月24日 日曜日 13：30から15：30		
開催場所	神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぶらぎ） 大・中会議室		
出席委員 会長◎ 副会長○	◎大橋 正明、塩原 良和、坪谷 美欧子、金井 克之、山内 涼子、 倉科 和子、モラレス ハイメ、大津 徹、○山中 悦子、新倉 久乃、 二文字屋 修、村井 典子（計12名）		
次回開催予定日	4月～5月		
問い合わせ先	所属名 担当者：国際課企画グループ 山崎 電話番号：045-210-3748		
下欄に掲載するもの	議事録要約	要約した理由	会議の決定による
審議経過	<p>1 外国籍県民かながわ会議との合同会議。 2 懇話会単独会議。 (1) 今期懇話会の議題について。</p> <p><b>【配付資料】</b>          ※ 資料1 かながわ国際政策推進懇話会 設置要綱及び委員名簿          ※ 資料2 外国籍県民かながわ会議 設置要綱及び委員名簿          ※ 資料3 外国籍県民かながわ会議 会議スケジュール          ※ 資料4 外国籍県民かながわ会議提言素案          資料5 第12期かながわ国際政策推進懇話会の議題について          （※印は、外国籍県民かながわ会議との共通資料）</p>		

## 【発言記録】

### くらし県民部長あいさつ

今回の懇話会は、今期議論していただくテーマについて、委員の皆様にご意見をいただきながら決定することを議題としています。

参考資料として配布しましたが、現在県では、総合計画「かながわグランドデザイン」を策定し、その中でグローバル戦略の推進を掲げています。第1回の会議において、本県の国際施策についてご説明申し上げましたが、現在県の海外展開を支える人づくりや人的ネットワークづくりなどによる国際協力の推進を、このグローバル戦略の柱の一つとして位置づけています。

今年度は海外技術研修員の受入れを拡充し、政策研修員という短期研修制度も開始しています。しかしながら、現行のかながわ国際施策推進指針には、この国際協力に関する記載がありません。県としては、今後の国際協力をより一層推進していくため、しっかりとしたバックボーンとなる考え方をもち、指針の素案を作成するため、議題の一つとして委員の皆様にご意見をいただきたいと思います。

短い時間ではございますが、活発なご議論をいただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願いし、私の挨拶とさせていただきます。

## 1 議題

### (1) 今期懇話会の議題について

(大橋委員)

今、部長から提案のあった議題1の国際施策推進指針の改定について、特に神奈川県国際協力のあるべき姿についてどのように言及をしていくかを議題にし、今後のスケジュールの中で、少なくとも4月以降の第3回と第4回で話し合おうと思います。

これについては、資料に基づいて私たちが自由に議論するのかなどの議論の方針について県の考えはありますか。

(事務局)

部長からもご説明いただきましたが、国際協力が県の施策の中で重要だということで、海外技術研修員を4人から8人に倍増し、今までの制度とは別に短期の研修制度も加えました。

議論については、指針の中で国際協力が全く位置づけられていないことについて、4つの目標の下の13の施策のどこに、どのような形で位置付けるのかについて委員の皆様からの意見を参考にし、県は素案作りを進めていきたいと思っています。

(大橋会長)

では、第3回は指針の素案作りのためのブレインストーミングという形で色々な議論をし、それを県がさらにもんでいくという概念でいいですか。

(事務局)

委員の皆様のご意見を参考にさせていただき、素案を作りたいと思います。

(山中副会長)

NGOかながわ国際協会会議は、6期の間ずっと国際協力を主体とし、神奈川県ではどんなことができるのかについての提言は相当多かったと思います。これらの意見も反映していければいいと思っています。

(大橋会長)

進め方についてはよろしいですか。第3回と第4回は指針についての話のみに集中するのか、あとで扱うテーマを少しでも頭出しして準備をしていくのかについて、もう少し先になってから考えてもよいかもしれません。急に第5回で議題として出しても何も議論できないかもしれないので、これについては後でもう一度

話し合っても良いかもしれません。

(山内委員)

これは第3回で指針の中に国際協力をどのように組み込むのかを話し合い、次の会議でその他のことについて話し合うということによろしいでしょうか。

(事務局)

前回の会議の中で、8月に指針の改定素案を作成予定であると説明させていただきました。この素案を作成するまでに、皆さんに指針についてご議論いただきたいと思います。

そのためには、2回ほど会議を開催した方が良いというご意見をいただきましたので、4月から7月までに第3回と第4回を開催することを予定させていただきました。

また、前回の会議の中で、指針に関わるものだけでなく中長期的なテーマについても議論を行う必要があるとの意見がありましたので、これについて残り2回で話し合っていていただく予定にいたしました。資料に記載いたしましたのは、あくまでスケジュールの案です。

(大橋会長)

つまり、第3回、第4回では指針に含むものをブレインストーミングの後に決定し、文章にしていく。

議論になるのは、挙げたテーマが指針に含むべきものなのか、中長期的なスパンで考えていくものなのかということです。SDGs（持続可能な開発目標）などの議題をどのように扱うかは検討しなければいけないと思います。

中長期的な課題だと考えていたものが指針に入れるべき課題になるかもしれないので、テーマは議論の内容次第で変わると考えた方が良いでしょう。

少なくとも、第3回は指針の改定についてのブレインストーミングをするということが決まりました。このブレインストーミングで中長期的な課題だと判断されたものは後半の課題に入れるということといたします。

今からの時間は、県の課題について皆さんから意見を聞いていきたいと思います。

(新倉委員)

大きな視点で考えてビジョンを作成していくことが目的であるということは解りました。

現在、日本及び神奈川県内で喫緊の課題とされていることのいくつかは、国連が提唱しているものと重複しています。例えば貧困格差の問題、就労の問題など、いくつかは先ほどの外国籍県民かながわ会議との合同会議でリンクしていることがわかりました。このような問題について指針に盛り込んでいけるようにしたいと思います。

また、これらの問題は決して外国籍県民だけの問題ではありません。つまり、これらの問題を解消することは、日本の社会的弱者を満たすことでもあります。

第3回で指針の素案について議論することについては賛成ですが、SDGsの中でも話し合うべきポイントについて議論できればよいと思います。

(大橋会長)

山中委員からもSDGsについてご説明をお願いいたします。

(山中副会長)

東京の国連の広報センターで配布している資料を持ってきました。SDGsにどのような項目があり、どの項目に私たちがこれから取り組んでいくべきかがわかりやすくなるかと思いますので、これをコピーしてお配りいたします。

(大橋会長)

コピーの間補足して説明いたしますと、SDGsはMDGs（ミレニアム開発目標）と違い、先進国と途上国を区別せず、日本のような生産消費を行っている地球がつぶれるという理解に基づいて作られているものです。

いわゆる貧困や格差の問題に加えて、私たちの生活消費もしくは環境や災害、外国人移民についても積極的な意義を取り上げています。SDGsは目標が多すぎるため、各国版のSDGsを作成することになりそうです。これは県の国際課の範疇を超えていると思いますが、神奈川県らしさのあるSDGsをどのように作るかについて議論することができればと思います。

JICA内でもどのように対応するか苦慮していると伺いました。勉強会などをされているようですね。JICA等の動向も見ながら、神奈川県のSDGs作成を進めていきたいですね。

MDGsの中に障がい者や格差の問題も入りました。大きな問題としてはLGBTの問題は入りませんが、かなり野心的な内容になっています。

これらの問題に関わっているNGOの視点から見ると言うべきことは言っていると感じますが、これは非拘束的合意ですので、この取り決めを守らなかったからと言って罰則があるわけではありません。だからこそ、神奈川県が動きを見せるために皆さんと議論できればと思います。

3月末に目標の下のターゲットや指標が決定しますので、これらがそろってから議論した方が良いでしょうね。

(山中副会長)

指針の改定の議題として提案されている「県の国際施策のあるべき姿」というのも、議論の内容によっては今までの途上国支援や途上国との関係を考えていくうえで大事な視点だと思います。

(大橋会長)

では、第3回か第4回でSDGsについて時間をとって説明し、どのように扱うかを考えていくという方向でよろしいでしょうか。

次に、多文化共生などその他のテーマについてご意見がありましたらどうぞ。

(新倉委員)

先日川崎の反ヘイトスピーチの集会に行きました。神奈川県は意見書を採択したと伺いましたが、私はヘイトスピーチを処罰する法律ができることを望んでいます。国際問題について議論するのであれば、この問題も取り上げてほしいです。

ヘイトスピーチは児童虐待などに並ぶ言葉による暴力です。この問題について議論し、できれば指針の中に入れることができればと考えています。

(大橋会長)

非常に重要なポイントですね。この問題を共生の中の問題の一つとして扱うか、これ自体を大きな一つの問題として扱うかについては考える必要がありますが、ポイントとしては間違いなく重要です。

(事務局)

本日の外国籍県民かながわ会議との合同会議で提言書をご覧いただきましたが、ヘイトスピーチについても当初から取り上げたいという意見がありました。今回の提言書には入っていませんが、外国籍県民かながわ会議の提言書でも今後取り上げる可能性があるということをお伝えいたします。

(大橋会長)

わかりました。いずれにしる懇話会でもテーマとして扱うということでもよろしいですね。

では、他の意見はいかがでしょうか。

(山内委員)

前回の会議と先ほどの合同会議でも話が出ましたが、「クロスファンクション」が大きなキーワードになると思います。

国際課も属する県民局の他部署に関わる人権男女共同参画や次世代育成なども互いに関連しています。教育委員会など、県民局以外の部署でも、外国人住民を対象にした施策は考えていかなければいけません。これらをどのようにコーディネートしていくかの方針について話し合った方が良いと思います。

(大橋会長)

これは難しい問題ですが、問題提起はした方が良いでしょう。指針の中でも議論になることですが、中長期的な内容でもあります。どちらにしても指針には一言入れた方が良いでしょう。

他にはいかがでしょうか。今出していただいた議題についてももう少し話し、進め方を決めていきましょう。

(坪谷委員)

前回も言及しましたが、神奈川県では人権にかかわる指針などの様々な指針が策定されています。多くの県民が抱える問題については、これらの指針の中にも組み込まれているかだと思います。

新しいものを作るだけでなく、既存の指針を振り返ることも大事ではないかだと思います。

もう一点、クロスファンクションはすごく重要な課題だと思いますが、県の指針ということで、県内の自治体との関わり方について触れてもいいかもしれません。

(大橋会長)

今の意見について、最初の既存の指針との交わりについては一度検討した方が良いでしょう。

(坪谷委員)

前回資料として配布されたグランドデザインを見ても、人権だけでなく様々な指針や計画が策定されていることがわかります。教育・子育てだけでも6つの個別計画があります。

(大橋会長)

これに対してこの会議がどのように関わっていくのかですね。指針に新たな問題を組み入れる際に、他の指針との関連性についても知っておいた方が良いでしょう。

(坪谷委員)

国際施策の指針について話し合う際、他の指針についても考慮して、国際施策推進指針に足りない視点を補ったり、国際施策推進指針を基にもう一段階議論を高めたりしていけるのではないのでしょうか。

(大橋会長)

国際施策を高めていくために他の指針を参考にするということと、逆に国際施策の方から他の指針への提案を行うということですね。それは検討の中で具体的に話し合っていくしかないですね。

この懇話会で「ここは見直した方がよい」という点を持ち寄って提案していくという形ですね。

(塩原委員)

根本的な話になりますが、「かながわ国際施策推進指針」という名称を変えることはできませんか。つまり、気になっているのは「国際施策」とは何を意味するかということです。英語に訳すと、国際施策は「International Policy」ですが、この「International Policy」とは何なのでしょう。

具体的にこの会議の場で議論するのは、まさにSDGsが象徴するように、グローバルな課題について地域の視点からどのように対応していくかということです。

「International Policy」と書くと、どうしても政府間・国家間の外交を連想してしまいます。しかし今期の懇話会の方向性は、グローバルな課題に一人の市民としてどう対応していくのか、行政府としての神奈川県がどのように対応していくのかを示していくことになるかと思えます。したがって、この「国際施策」という呼称が適切かどうか、もう一度考えるべきだと思いました。

「持続可能な開発のための県民の取り組み」のようなニュアンスを、名称に込めることはできないでしょうか。

そこでお伺いしたいのは、この指針の名称について規定があるのかということです。

(事務局)

名称に関しましては、平成3年に初版を作成した際は「かながわ国際施策推進プラン」であったものを、平成16年の改定の際に「指針」に変更しているという経緯があります。

(塩原委員)

神奈川県は民際外交を主導してきたり、この件については豊かな歴史を持っている自治体であり、これを否定するわけではありませんが、グローバル化の時代の中で、あえて「国際」という言葉を入れる意味については再考すべきではないでしょうか。

「グローバル」や「サステイナブル」などの、国境の枠を超えた世界とのつながりを地域の視点から再発見していこうという方向性であれば、「名は体を表す」ということで、名称についても検討した方がよいのではないのでしょうか。

(大橋会長)

おっしゃることは解りますが、主導しているのが「国際課」ということもあります。グローバル化が進展していることを示す内容にした方がよいとは思いますが、名前を変えることができるかについては制約があるかと思えます。

ただ、私たちが出すメッセージは、「グローバルシチズン」として一緒に生きていくための考え方を示し、クロスファンクショナルについても積極的に考えることを提案していくことです。今までは途上国と先進国、国内と国際を分けて考えていましたが、これを「共生」やサステナビリティに置き換えて整理していくことが重要な課題であることを打ちだした方がよいと思えます。

名称についても難しいかとは思いますが検討していただいた方がよいと思えます。このようなことを言いつけることができるのが神奈川県だと思えます。

(山中副会長)

確かに時代の動きを反映させて名称を変えるということもあるべきことだと思いますが、今回の改定では名称の変更までは難しいかもしれません。

(塩原委員)

名称を変えるのではなく、副題をつけるという対応もあるかと思えます。

(大橋会長)

改定に際し県議会を通すことを考えると主題の変更は難しいかもしれませんが、その下地を我々が作ることはできるかと思えます。

他には意見はありますでしょうか。

(山中副会長)

資料の指針に関する議論の中に「外国人労働者が地域社会になじむための支援について」とあります。永住者ではない多くの外国人労働者が県内に暮らしていますが、今後国が特区などの制度を作るにあたり、受け入れる側の地域としてはどのように考えていくべきかを指針に入れるというのは違うのではないかと感じます。これは中長期的な視点で議論すべき内容ではないでしょうか。もしくは地域住民の一員として、指針

とは別に短期的な視点で考えていく必要があると思います。

(大橋会長)

国際施策に関する議論をしていく中で、指針に反映できるものは反映し、こぼれたものは短期的な課題として設定しても良いかもしれませんね。

これは議論のプロセスの中で自然に分別されていくものですので、どの課題がどう分別されるかも含めて今後議論していきましょう。

現在出ている議題は、外国人労働者の問題、ヘイトスピーチの問題、クロスファンクションの問題などがあります。また、議論するプロセスで県の指針との重なりあいについても言及する必要があるかと思います。

また、市町村との関連をどうしていくか、そして、第3回の会議でSDG sについても少し扱ってほしいと思います。

今出た議題については、ブレインストーミングの後、第4回で分別してほしいと思います。皆さんとの議論で結論が出ない場合は、私と副会長と事務局で整理をさせていただき、第5回、第6回で議論させていただくという進め方でよろしいでしょうか。

指針に入れることができるものはできるだけ入れていきたいと思います。指針に入れることができないものについては後半に議論するという事で整理させていただきます。

(新倉委員)

国連のコールセンターのホームページでSDG sについての詳しい資料を見たのですが、必要なものの優先順位があると思います。指針に掲載するものや、今後必ず問題になることは取りこぼさないようにしたいと思います。

また、指針に組み込まれただけで政策として実現されなければ意味がないので、優先順位を決めて指針に入れるものを決めた方がよいと思います。

(大橋会長)

SDG sは、各国や主体がどの項目を扱うかを決めてよいとされています。本当に神奈川県版のSDG sを作るのであれば、もう少し幅広い議論をする必要がありますが、その場合はもっと様々な人が参加できる議論の場を用意した方がよいと思います。

少なくとも、私はSDG sについて神奈川県に真剣に考えてほしいとおもいます。しかし、SDG sで取り上げている課題は多岐にわたるので、議論の方法を工夫しなければと考えています。

では、第3回は指針の改定についてということで、皆さんに指針をもう一度読み込んでいただき、ブレインストーミングをしていきます。

SDG sについては、私か山中副会長もしくは誰かゲストをお呼びして、全体像を示してから神奈川県がどのような対応をとるのかを話し合っていくということでよいでしょうか。

第4回では、ブレインストーミングの結果を受けて、議題を整理し、県が作った指針の素案を修正する。そして、積み残った議論を第5回以降で話し合っていくという流れです。

このような流れでよろしいでしょうか。

(塩原委員)

全く異存ありませんが、その際これまで神奈川県が取り組んできた既存の政策課題があり、現在の指針に関しても改善すべき様々な課題があるかと思います。

たとえば多文化共生はSDG sのどこに位置付けられるのか、留学生の支援はどうかなど、既存の政策課題をSDG sという視点から整理するという作業をするべきだと思います。そうすることによって既存の施策や政策との連続性を保っていきながら、現代の新しい価値観や視点を入れていくという議論の仕方をした方が現実的だと思います。

(大橋会長)

私もそのような議論に持っていくことができればよいと思いますが、国際課の方が神奈川県版のSDGsを作成するかどうかを聞くのはまだ先の話だと思います。塩原委員がおっしゃった形で進行できるのがベストだとは思いますが。

今回は、倉科委員に途上国の自治体や途上国のSDGsをJICAがどのように支援するかについて、その取り組み方針をお伺いしたいと思います。

繰り返しますが、次回第3回は4月か5月に開催し、議題の頭出しを行っていきます。指針については、塩原委員のおっしゃるように前文でグローバル化などについて触れても良いかもしれません。

SDGsについては、私か全体図を説明し、JICAの取り組みについては倉科委員にご説明をお願いします。これを指針に取り込んでいくのか、神奈川県版のSDGsをある程度形にできるかもしれません。

このような方針で進めていくということで、事務局に進行をお渡しいたします。

(国際課長)

本日は短い時間の中様々な議論をいただきましてありがとうございます。本日会長に整理していただき決定いたしましたテーマに関しましては、本日の議論の結果として後日お知らせさせていただきます。

会議資料としてご提供いただける資料がございましたら、次回までに事務局にメールで送っていただければ、次回の資料として事務局で印刷の上会議の際に配布させていただきます。これを基にご議論を進めていただければと存じます。

次回の会議は4月から5月を予定しておりますので、後日日程調整にご協力いただければと存じます。改めて事務局より日程調整のご連絡をさせていただきます。

これにて閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

(終了)